

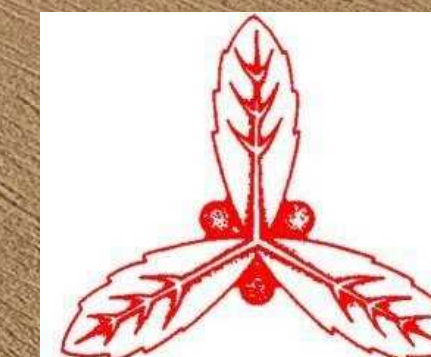
# 徳島県高等学校教育研究会外国語学会 統一研究大会

## 第1分科会

### 「4技能を伸ばす指導」

#### Part 1

徳島県立城ノ内中等教育学校 和泉 太輔



# 第1分科会 「4技能を伸ばす指導」

## 日本の英語授業

- 〔1〕50分1コマ×週3(4)**
- 〔2〕検定教科書の使用**
- 〔3〕大学入試等への対応**
- 〔4〕統合的な学習**
- 〔5〕外部試験対策**      **等**

R

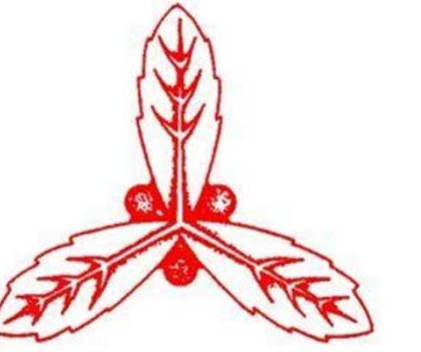
L

S

W

C





## 第8節 外国語 第1款 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、  
外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動  
及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えな  
どを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニ  
ケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題  
や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、  
話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に  
表現したり伝え合ったりすることができる力を養う

文部科学省 (2018)

# 「4技能を伸ばす指導」

〔自分の目指す4技能型授業の変遷〕

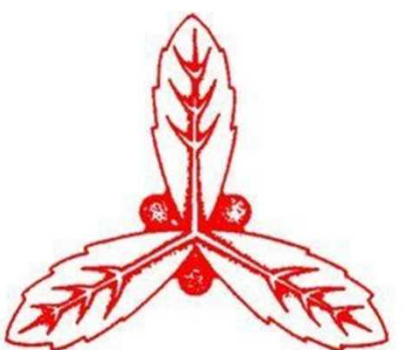
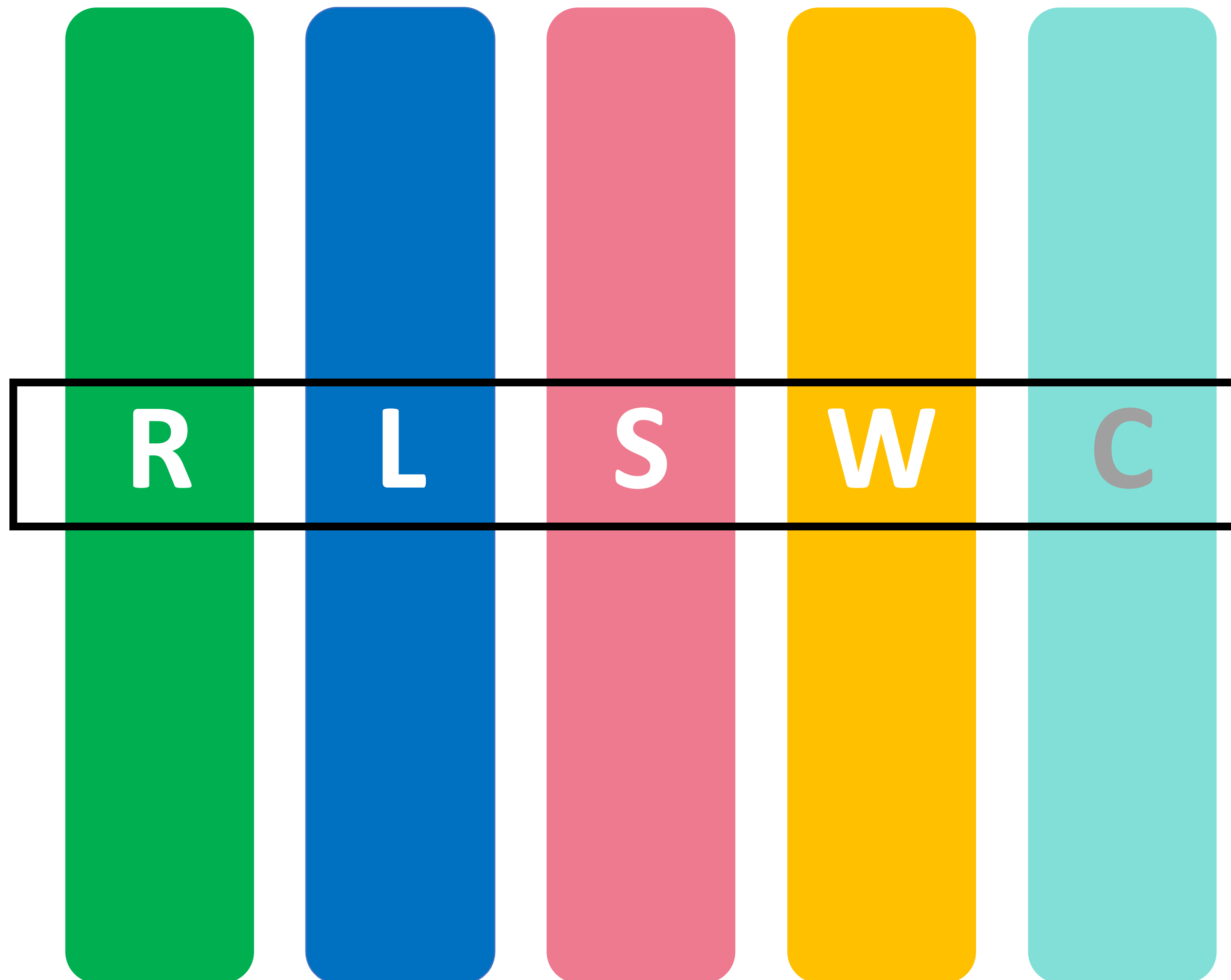
**Task-based Language Teaching?**



**CLIL (Content and Language integrated teaching)**

**+**

**Speech (Pronunciation)**

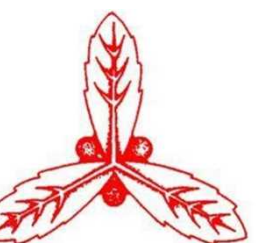


## 4 技能向上

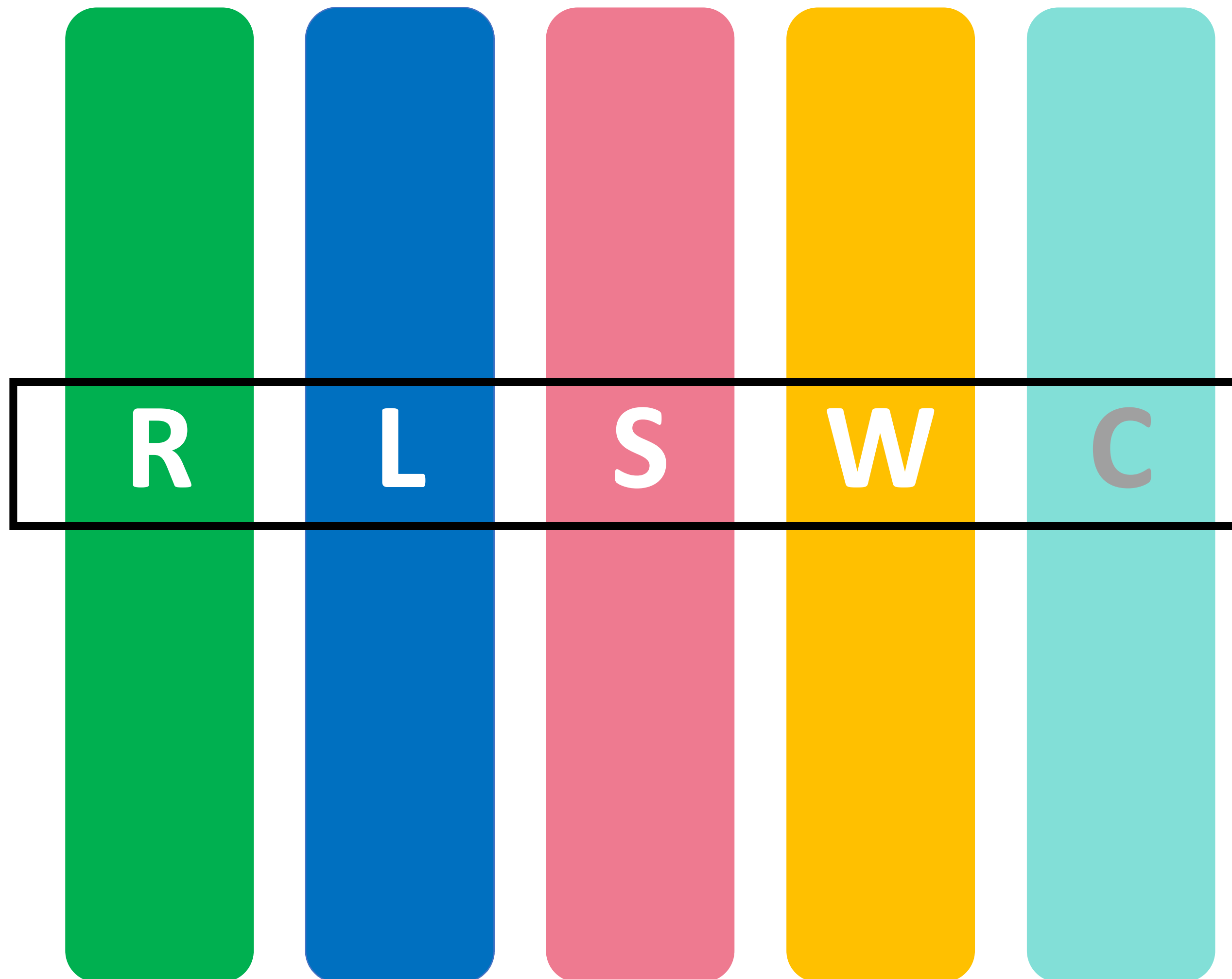
???

- Krashen (1987) presents that language learners can develop fluency, accuracy, and complexity by being given **comprehensible input** to naturally develop their receptive competence.
- Schmidt and Frota (1986, p.311) “**noticing** the gap principle”  
“a second language learner will begin to acquire the targetlike form if and only if it is present in **comprehended input** and “noticed” in the normal sense of the word, that is consciously.”

- **Output hypothesis (Swain, 1995) :**
  - (1) **Noticing function (気づき機能)**
  - (2) **Hypothesis-testing function (仮説検証機能)**
  - (3) **Metalinguistic function (メタ言語的機能)**



# 「4技能を伸ばす指導」



〔自分の目指す4技能型授業の変遷〕

**Task-based Language Teaching?**

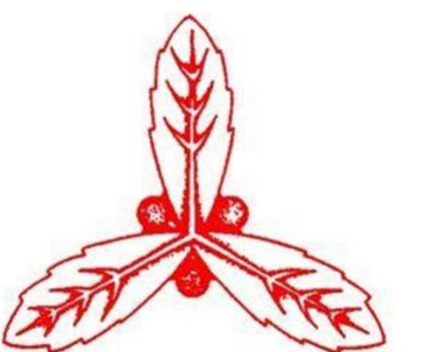


**CLIL (Content and Language integrated teaching)**

+

**Speech (Pronunciation)**

**4技能向上 → Debating?**



## ○Aclan and Aziz (2015):

**ディベートは、Communicative Language Teaching (CLT)に最適な指導ツールである。なぜなら、CLTは学習者中心、協力的、対話的、全体的、タスクベース等を考慮に入れた指導スタイルであるからだ。**

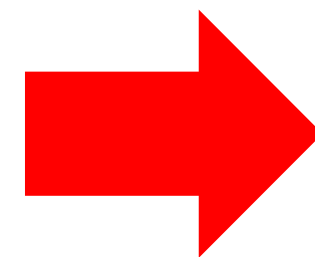
## ○Scott (2008):

**ディベート学習では、学習者が単なる知識の受け手から、学習プロセスへの積極的な参加者となれる環境を提供できる。**

# ディベートに対する悪いイメージがあった……

割 愛

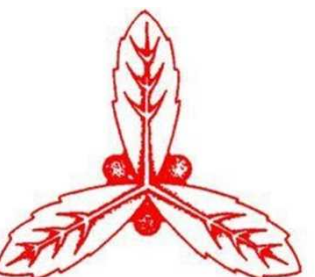
- (1) 難しい
- (2) ただの劇？
- (3) 日本語ばかり使うので、言語学習における教育効果低い
- (4) 指導法が分からない



自分でやり始めてから、英語トレーニングとして最適。でも苦痛。でも、爽快で楽しい。

(注意)

私はディベート・マニアではありません。統合的に英語の4技能とコンテンツの理解を研究しています。CLILと speech (pronunciation) の研究。ディベートは英語学習の手段の1つと捉えています。



4 技能向上の1つの手段として  
パラを導入してみよう！

## (1) 定義

ある論題に対して、対立する立場をとるディベーター同士が、聴衆を論理的に説得するために議論すること (松本, 鈴木, 青沼, 2009)

日本の学校現場では、「ディベート＝相手を論破する」ものとの誤解があるように思われるため、河野(2021)では、次の3つの観点にまとめて再定義

### ディベートの特徴 (河野, 2021)

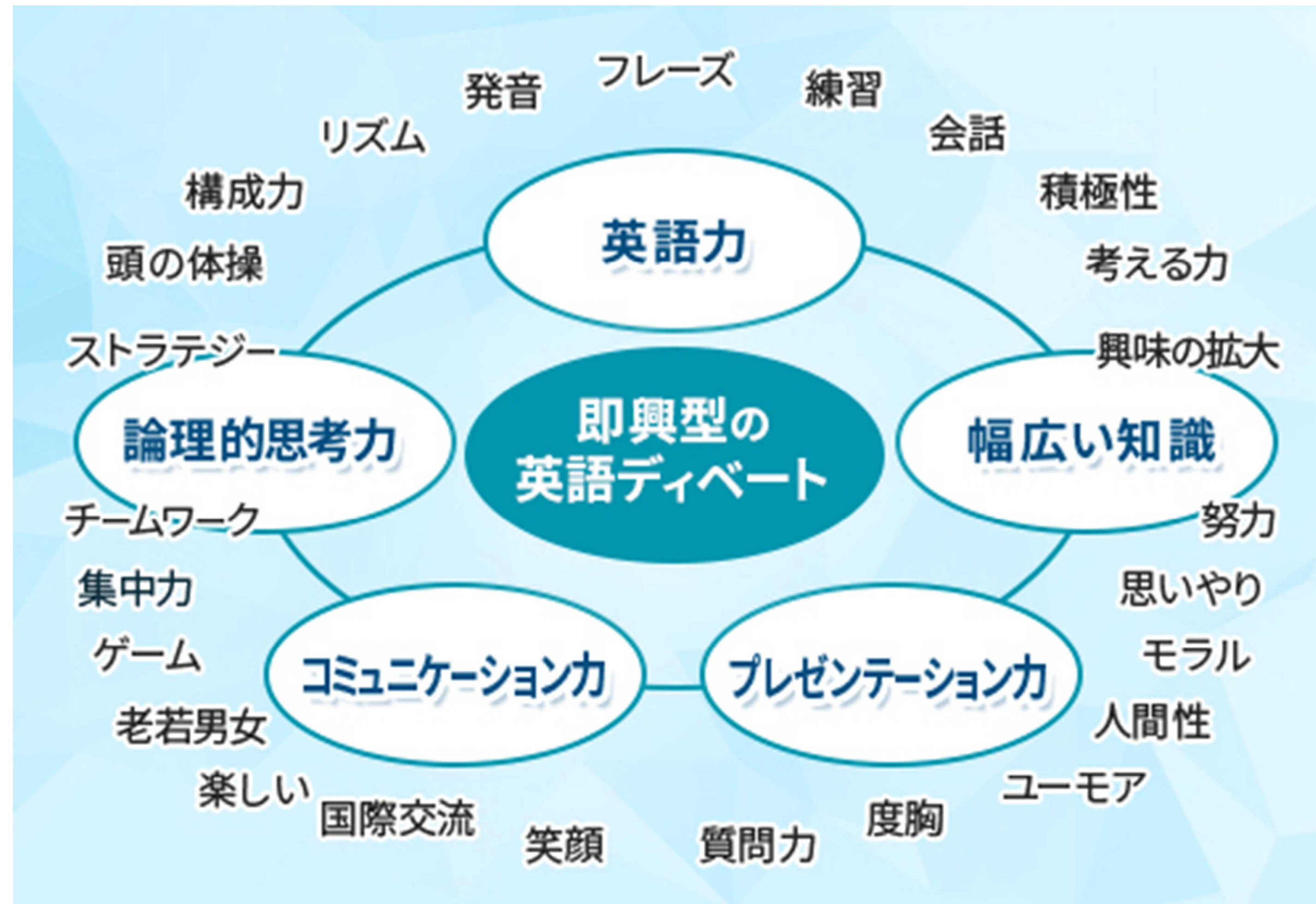
- ① 相手を打ち負かすのではなく、**第三者(ジャッジ)を説得**することを競うものである。
- ② 賛成と反対の立場はランダムに振り分けられるので、**個人的な意見を主張するものではない。**
- ③ 基本的には、チームを構成して**協力しながら議論**を行うものである。

# ○Sulaiman, Fauziah, Wan Amin & Nur Amiruddin (2008):

## 〔ディベートで身につく力〕

- ①コミュニケーション能力
- ②自信
- ③リサーチ能力
- ④批判的思考

## OPDA (2022)



# 1) 2022年度現在, 中学・高校で実施されている ディベートの種類

		授業用	部活用
国内大会	調査型		HEnDA
	即興型	PDA	HPDU
世界大会	調査/即興		WSDC

河野(2021)



## 2) なぜパーラ・ディベートを勧めるのか？

	スタイル	人数	準備時間	スピーチ時間	質疑応答
PDA	即興	3人	15分	2or3分	POI
HEnDA	準備	4人	1年間	3or4分	質問タイム

河野(2021)

**Aclan and Aziz (2015):**

パーラの方が、アカデより、コミュニケーションスキルの向上に効果的  
〔理由〕 主張（内容） < コミュニケーション





## パーラメンタリーディベートとは

### Parliamentary Debate

パーラメンタリーディベートとは、一つの論題に対し、肯定と否定チームに分かれ、各々のチームが第三者を説得させるパブリックスピーチ型のディベートです。

論題は、社会、政治、倫理、環境、国際問題など多岐にわたります。論題が発表されてから、15～30分程度の短い準備時間の後、ディベートを開始します。ディベートをする者は、肯定か否定チームのいずれに属するかを自ら選ぶことはできず、自身の意見とは異なる観点からの主張も考えなければならないことがあります。

世界では、教育現場にてパーラメンタリーディベートが広く導入されています。ブレア元首相など政治家をはじめ、パーラメンタリーディベートの経験を活かし、多くの人々がグローバルに活躍されています。

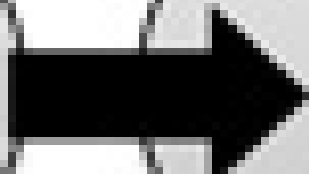




## Government

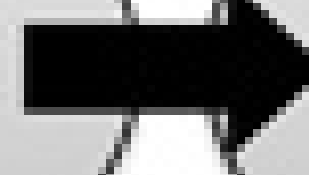
## Opposition

定義を行い、  
肯定する理由1  
を述べる。



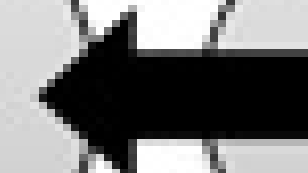
肯定する理由1へ反論し、  
否定する理由1を述べる。

否定する理由1へ反論、  
肯定する理由1の再構築、  
肯定する理由2を述べる。



肯定する理由1、2へ反論、  
否定する理由1の再構築、  
否定する理由2を述べる。

否定する理由2へ反論し、  
Governmentチームが  
勝っている理由をまとめる。



Opposition チームが  
勝っている理由をまとめる。

# 授業実践 ・ 研究調査

# **(Research Questions)**

- 1) デイベート学習は、4技能向上に効果があるのか？**
- 2) デイベート活動を通して、4技能向上に向けての学習意欲を向上させることができるのか？**

## 調査対象

- 西日本の公立普通科高校 3 年生 [ディベート実践は高 2 ~ 3]
- 英語学力 CEFR B1 ~ C1 above
- 大学進学希望
- 理系 (43名)

## 調査方法

- アンケート調査を実施
- アンケートは、7段階のリッカート式を使用した。  
1 が agree で 7 が disagree である



結果・成果

		Mean
1	英語ディベートをして、論理的に物事を見ることができるようになった。	1.95
2	英語のスピーキングが流暢になり、うまくなったと感じた。	2.53
3	英語でのディベートは難しく、高校生では無理と思っている。	5.1
4	人前で堂々と自己表現ができるようになった。	3.4
5	英語の発音がうまくなった。	3.35
6	英語のリスニング力が良くなった。	3.05
7	時事問題に対する記事を読んで、穿った見方をするようになった。	3.1
8	相手に意見を伝える時に、サインポストを使って話す癖がついた。	3.38
9	英語の模試の成績が上がった。	3.35
10	英語を話す時に、文法等を考えて話すことがなくなった。	3.58
11	批判的に物事を考えることができるようになった。	2.75
12	英語学習にモチベーションが上がった。	3.05
13	英単語の力が上がった。	3.03
14	相手の意見をしっかりと聞きこうと集中してリスニングをした。	2.03
15	実際にやってみて、予想以上にうまくできた。	3.65
16	英語の授業が楽しくなった。	3.13
17	英語のイントネーションやリズムを意識して発話した。	2.93
18	時間内に計画立てて英語を話そうと努力した。	2.33
19	模試の筆記試験の点数が上がった。	3.53
20	英語力が足りないと感じ、学習を行った。	3
21	時事問題に興味を持った。	2.7
22	相手に自分の意見を伝えようと構文や単語などを意識して発話した。	2.53
23	英語を話すことが楽しくなった。	2.75
24	相手の意見を聞きながら、批判的に考え、反駁できた。	2.78
25	相手に伝えようとジェスチャーや表情を使った。	2.65
26	模試のリスニングの点数が上がった。	3.35
27	英語のエッセイライティングに効果的だった。	2.23
28	物事を俯瞰して捉えることができるようになった。	2.7
29	相手が理解できる発音をしようと心がけた。	2.3
30	自分の子どもができたなら、将来英語ディベートをさせたい。	3.03
31	模試のリーディング（共通テスト）の点数が上がった。	3.58
32	ディベートは4技能を効果的に伸ばせる練習法である。	2.43
33	思った以上に難しくなかった。	4.18
34	エッセイライティングで高得点を取れるようになった（英検やその他試験で）	3.08
35	英語を話す自信がついた。	2.93

4技能系の各項目  
3点以内、  
または約3点

		Mean
1	英語ディベートをして、論理的に物事を見ることができるようになった。	1.95
2	英語のスピーキングが流暢になり、うまくなったと感じた。	2.53
3	英語でのディベートは難しく、高校生では無理と思っている。	5.1
4	人前で堂々と自己表現ができるようになった。	3.4
5	英語の発音がうまくなった。	3.35
6	英語のリスニング力が良くなった。	3.05
7	時事問題に対する記事を読んで、穿った見方をするようになった。	3.1
8	相手に意見を伝える時に、サインポストを使って話す癖がついた。	3.38
9	英語の模試の成績が上がった。	3.35
10	英語を話す時に、文法等を考えて話すことがなくなった。	3.58
11	批判的に物事を考えることができるようになった。	2.75
12	英語学習にモチベーションが上がった。	3.05
13	英単語の力が上がった。	3.03
14	相手の意見をしっかり聞きこうと集中してリスニングをした。	2.03
15	実際にやってみて、予想以上にうまくできた。	3.65
16	英語の授業が楽しくなった。	3.13
17	英語のイントネーションやリズムを意識して発話した。	2.93
18	時間内に計画立てて英語を話そうと努力した。	2.33
19	模試の筆記試験の点数が上がった。	3.53
20	英語力が足りないと自覚し、学習を行った。	3
21	時事問題に興味を持った。	2.7
22	相手に自分の意見を伝えようと構文や単語などを意識して発話した。	2.53
23	英語を話すことが楽しくなった。	2.75
24	相手の意見を聞きながら、批判的に考え、反駁できた。	2.78
25	相手に伝えようとジェスチャーや表情を使った。	2.65
26	模試のリスニングの点数が上がった。	3.35
27	英語のエッセイライティングに効果的だった。	2.23
28	物事を俯瞰して捉えることができるようになった。	2.7
29	相手が理解できる発音をしようと心がけた。	2.3
30	自分の子どもができたなら、将来英語ディベートをさせたい。	3.03
31	模試のリーディング（共通テスト）の点数が上がった。	3.58
32	ディベートは4技能を効果的に伸ばせる練習法である。	2.43
33	思った以上に難しくなかった。	4.18
34	エッセイライティングで高得点を取れるようになった（英検やその他試験で）	3.08
35	英語を話す自信がついた。	2.93

青 : motivation  
 緑 : positive

		Mean
1	英語ディベートをして、論理的に物事を見ることができるようになった。	1.95
2	英語のスピーキングが流暢になり、うまくなったと感じた。	2.53
3	英語でのディベートは難しく、高校生では無理と思っている。	5.1
4	人前で堂々と自己表現ができるようになった。	3.4
5	英語の発音がうまくなった。	3.35
6	英語のリスニング力が良くなった。	3.05
7	時事問題に対する記事を読んで、穿った見方をするようになった。	3.1
8	相手に意見を伝える時に、サインポストを使って話す癖がついた。	3.38
9	英語の模試の成績が上がった。	3.35
10	英語を話す時に、文法等を考えて話すことがなくなった。	3.58
11	批判的に物事を考えることができるようになった。	2.75
12	英語学習にモチベーションが上がった。	3.05
13	英単語の力が上がった。	3.03
14	相手の意見をしっかり聞きこうと集中してリスニングをした。	2.03
15	実際にやってみて、予想以上にうまくできた。	3.65
16	英語の授業が楽しくなった。	3.13
17	英語のイントネーションやリズムを意識して発話した。	2.93
18	時間内に計画立てて英語を話そうと努力した。	2.33
19	模試の筆記試験の点数が上がった。	<b>3.53</b>
20	英語力が足りないと感じ、学習を行った。	3
21	時事問題に興味を持った。	2.7
22	相手に自分の意見を伝えようと構文や単語などを意識して発話した。	2.53
23	英語を話すことが楽しくなった。	2.75
24	相手の意見を聞きながら、批判的に考え、反駁できた。	2.78
25	相手に伝えようとジェスチャーや表情を使った。	2.65
26	模試のリスニングの点数が上がった。	<b>3.35</b>
27	英語のエッセイライティングに効果的だった。	2.23
28	物事を俯瞰して捉えることができるようになった。	2.7
29	相手が理解できる発音をしようと心がけた。	2.3
30	自分の子どもができたなら、将来英語ディベートをさせたい。	3.03
31	模試のリーディング（共通テスト）の点数が上がった。	<b>3.58</b>
32	ディベートは4技能を効果的に伸ばせる練習法である。	2.43
33	思った以上に難しくなかった。	4.18
34	エッセイライティングで高得点を取れるようになった（英検やその他試験で）	3.08
35	英語を話す自信がついた。	2.93

課題！

# 分析

## **(Research Questions)**

- 1) デイベート学習は、4技能向上に効果があるのか？**
- 2) デイベート活動を通して、4技能向上に向けての学習意欲を向上させることができるのか？**

## (RQ1)

外部試験の結果も考慮して考えると、少なからず、ディベート学習が4技能の向上に寄与したのではないかと推測できる。特に、エッセイライティング、対人リスニング力、スピーチ力等を含めた4技能の向上には一役買ったのではないかと考えている。

### ○英検合格者（対象43名）

英検 級	合格人数
1級	1
1級 1次合格	1
準1級	33

# (RQ1)

ただし、大学入試との整合性については、生徒との共通理解が必要であると考えます。ディベートをしたのに、「**模試の成績が上がらない**」という**不満がでないように学習の意図と意味を適切に生徒へ伝える**必要がある。

ただし、今回の調査は簡易的なデータのために、**確証はなく、調査対象の拡張やデータ収集の方法を再考し、継続して研究を行う必要がある。**

# (RQ2)

〔結論〕 良い英語学習の動機付けになったようだ。  
(ただし、今回の調査は簡易的なデータである点は考慮すべきである。)

## 〔推測〕

チームで活動するし、自分のスピーチ時間と役割は決まっているので、なんとかしないとチームに迷惑がかかるという責任感から多くの生徒は自己の中で暗示的なpushed outputが行われているのかもしれない。 [Bilingualismについてのfuture research?]

※ この環境がプレッシャーになりすぎる生徒もいる点を配慮しないといけない。  
できるだけ足場がけ(参照: Gibbons, 2003)が大切と判断。

- ① **机間指導**の時や該当生徒のスピーチの時はそつと言葉を伝えてやったり、隣にそつと立ちヘルプした。
- ② 最初は3分スピーチではなく、全員1分スピーチから始め、1分半、2分、2分半、3分(Replyは最長2分)と負荷を軽減する等、みんなできないけど、楽しめる雰囲気作りをこころがけたのも功を奏した可能性もある。

# 目的：Debateをするために学ぶ

## 大量のインプット

- 単語暗記：① 帰れま10  
② 英字記事の多読・精読
- 英語構文暗唱（文法含）
- 英語表現やコロケーション
- Non-verbal communication channel の理解
- 音の認知（comprehensible pronunciation）  
(e.g., Saito, Trofimovich, & Isaacs (2015), Saito & Saito (2017) 等)
- 時事問題の把握（新聞，ネット）
- 英文の構成の理解  
(AREA, NLC, mechanism & impact) 等

**Accuracy**

## 適切なアウトプット

- 1 minute speech (AREA, 文法)  
〈Word Counter〉 (e.g., 西 (2010))
  - Why-Because
  - Negotiation
  - ICU 等
  - **Debate (Judgeなしで週1回)**
- ・2-3で回数増やす  
・Corrective feedbackほぼなし  
(Riddell (2014)と反するが)

**Fluency (+Accuracy)**



# 大学入試への応用, 英語運用能力の向上

## 大量のインプット

- 単語暗記: ① 帰れま10  
② 英字記事の多読・精読
- 英語構文暗唱(文法含)
- 英語表現やコロケーション
- Non-verbal communication channel の理解
- 音の認知 (comprehensible pronunciation)  
(e.g., Saito, Trofimovich, & Isaacs (2015), Saito & Saito (2017) 等)
- 時事問題の把握(新聞, ネット)
- 英文の構成の理解 (AREA, NLC, mechanism & impact) 等

L

R

W

C

目的が明確:  
Debateをするため

## 適切なアウトプット

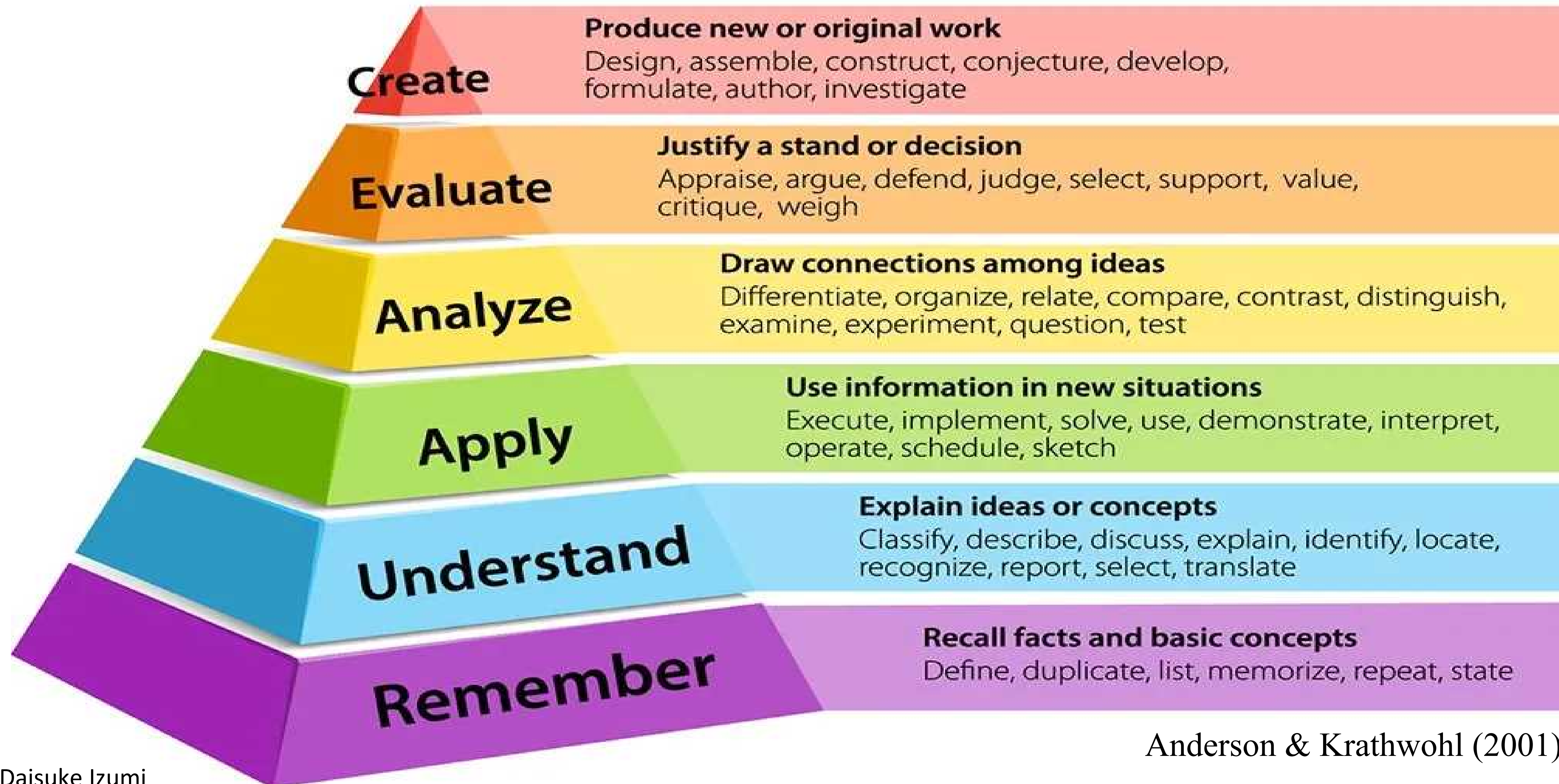
- 1 minute speech (AREA, 文法)  
〈Word Counter〉 (e.g., 西 (2010))
  - Why-Because
  - Negotiation
  - ICU 等
  - **Debate (Judgeなしで週1回)**
- ・2-3で回数増やす  
・Corrective feedbackほぼなし  
(Riddell (2014)と反するが)

S



# Bloom's Taxonomy

( Revised Version )



Anderson & Krathwohl (2001)



		Mean
1	英語ディベートをして、論理的に物事を見ることができるようになった。	1.95
2	英語のスピーキングが流暢になり、うまくなったと感じた。	2.53
3	英語でのディベートは難しく、高校生では無理と思っている。	5.1
4	人前で堂々と自己表現ができるようになった。	3.4
5	英語の発音がうまくなった。	3.35
6	英語のリスニング力が良くなった。	3.05
7	時事問題に対する記事を読んで、穿った見方をするようになった。	3.1
8	相手に意見を伝える時に、サインポストを使って話す癖がついた。	3.38
9	英語の模試の成績が上がった。	3.35
10	英語を話す時に、文法等を考えて話すことがなくなった。	3.58
11	批判的に物事を考えることができるようになった。	2.75
12	英語学習にモチベーションが上がった。	3.05
13	英単語の力が上がった。	3.03
14	相手の意見をしっかり聞きこうと集中してリスニングをした。	2.03
15	実際にやってみて、予想以上にうまくできた。	3.65
16	英語の授業が楽しくなった。	3.13
17	英語のイントネーションやリズムを意識して発話した。	2.93
18	時間内に計画立てて英語を話そうと努力した。	2.33
19	模試の筆記試験の点数が上がった。	3.53
20	英語力が足りないと自覚し、学習を行った。	3
21	時事問題に興味を持った。	2.7
22	相手に自分の意見を伝えようと構文や単語などを意識して発話した。	2.53
23	英語を話すことが楽しくなった。	2.75
24	相手の意見を聞きながら、批判的に考え、反駁できた。	2.78
25	相手に伝えようとジェスチャーや表情を使った。	2.65
26	模試のリスニングの点数が上がった。	3.35
27	英語のエッセイライティングに効果的だった。	2.23
28	物事を俯瞰して捉えることができるようになった。	2.7
29	相手が理解できる発音をしようと心がけた。	2.3
30	自分の子どもができたなら、将来英語ディベートをさせたい。	3.03
31	模試のリーディング（共通テスト）の点数が上がった。	3.58
32	ディベートは4技能を効果的に伸ばせる練習法である。	2.43
33	思った以上に難しくなかった。	4.18
34	エッセイライティングで高得点を取れるようになった（英検やその他試験で）	3.08
35	英語を話す自信がついた。	2.93

教員の  
メンタルバリア？

教員のメンタルバリアや生徒（教員）の英語力向上に向けての方策を再考してみる機会になるかも？

もしかして、**生徒より教員が変化**することで、**授業が変わる??**

大学入試への応用,  
英語運用能力の向上

## 大量のインプット

- **単語暗記**: ① 帰れま10  
② 英字記事の多読・精読
- **英語構文暗唱 (文法含)**
- **英語表現やコロケーション**
- **Non-verbal communication channel の理解**
- **音の認知 (comprehensible pronunciation)**  
(e.g., Saito, Trofimovich, & Isaacs (2015), Saito & Saito (2017) 等)
- **時事問題の把握 (新聞, ネット)**
- **英文の構成の理解 (AREA, NLC, mechanism & impact) 等**

L

R

W

C

目的が明確:  
Debateをするため

各校の状況に合わせて、◎を調整しながら、応用していただけるのではないかと？

## 適切なアウトプット

- 1 minute speech (AREA, 文法) <Word Counter> (e.g., 西 (2010))
  - Why-Because
  - Negotiation
  - ICU 等
  - **Debate (Judgeなしで週1回)**
- ・2-3で回数増やす  
・Corrective feedbackほぼなし (Riddell (2014)と反するが)

S



# Feedback をどうするのか？

- (1) 城ノ内と一緒にオンラインで練習しましょう。
- (2) 教員オンライン練習会に参加しましょう。
- (3) お気軽に和泉に相談してくださいませんか？  
一緒に考えていきませんか？



# 誤解を防ぐために・・・

- (1) パーラ**だけ**を繰り返してしても、4技能の向上には大きくつながらない。
- (2) パーラは4技能向上の**1つの手段**に過ぎない。
- (3) パーラを実践するための「**大量のインプット**」が最も大切
- (4) 教員の**指導法を再考**するきっかけ
- (5) 教員の**英語運用能力の向上**にも良い刺激があるかも・・・

# 課題

- ① Translation対策 → 別枠, 別の授業で実施
- ② 日本語での説明問題対策 → 別枠, 別の授業で実施
- ③ 他の教員との進度 → 各ユニットの最後にディベート
- ④ 教員側のメンタルバリア  
→ 一緒に悩みを共有しましょう。(e.g.) 火曜日の会



# Part 2

後半：

パーラ・ディベートを日本語でやってみよう。

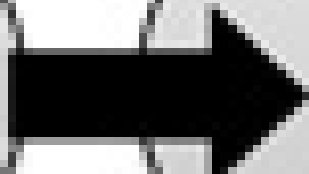




## Government

## Opposition

定義を行い、  
肯定する理由1  
を述べる。



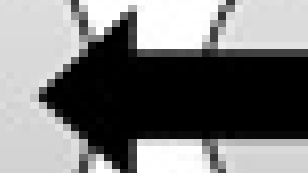
肯定する理由1へ反論し、  
否定する理由1を述べる。

否定する理由1へ反論、  
肯定する理由1の再構築、  
肯定する理由2を述べる。



肯定する理由1、2へ反論、  
否定する理由1の再構築、  
否定する理由2を述べる。

否定する理由2へ反論し、  
Governmentチームが  
勝っている理由をまとめる。



Opposition チームが  
勝っている理由をまとめる。

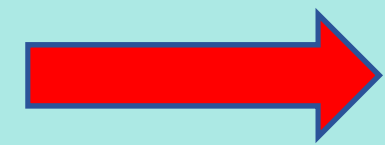
# 《PDAディベートの基本》



肯定側

否定側

1つ目の意見（強い）



反論 + 1つ目の意見（強い）

3分

反論 + 再反論 +  
2つ目の意見



反論（2点） + 再反論  
+ 2つ目の意見

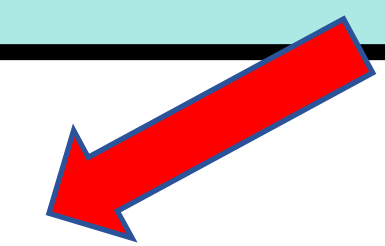
3分

反論 + 比較 + まとめ



反論 + 比較 + まとめ

2分



# 《基本ルール》

- 1) 論題(Motion)はラウンド前に発表されます。対戦カードや立場〔肯定側 (Government), 否定側 (Opposition)〕もその時に発表されます。
- 2) 準備時間は15分です。準備時間中は、スマホ等のデジタル機器は使用禁止です。タイマーとしても使えません。
- 3) 質疑応答〔Point of Information (POI)〕  
相手のスピーチ中に質問をすることができます。質問する時は15秒以内で質問してください。Q&Aタイムではないので、質問したらすぐに座ってください。質問を受ける側は全ての質問を受ける必要はありません。

河野(2021)

# 《立論の練習をしてみよう》

## 論題【Tabaco should be banned.】

- 1) AREAとNLCで話すようにしましょう。  
**Assertion**, **Reason**, **Example**, **Assertion** の流れで話して

(e.g.) **We are happy to propose this motion.**

**This is because smoking is bad for our health.**

**For example, if people smoke for several years, the risk of cancer or high blood pressure etc. should be higher.**

**For this reason, we agree with this motion.**

# 《NLCって何?》 : Numbering / Labelling / Contents

We are happy to propose this motion.

(see 河野, 2021)

We have **two reasons**.  
**First of all**, smoking is bad for our **health**. How bad?

We have **two points**. **The risk of cancer** and **second hand smoke**.

If people smoke for several years, **the risk of cancer or high blood pressure etc. should be higher**.

なぜならタール等の発がん性物質をたばこの煙が含んでいるからだ。 **例えば...**

だから、タバコを日常的に吸い続けるとがんになるリスクが高まるので健康への被害がでる。

Secondly, **副流煙**の問題である。

なぜなら、喫煙者だけでなくその周りにいる禁煙者も有毒な物質を含む煙を吸ってしまう恐れがあるからだ。

例えば、副流煙に含まれる有毒物質は、喫煙者の吸う主流煙より高濃度である。

よって、副流煙は喫煙者よりも周りにいる禁煙者により多くの害を与えることが問題である。

**The second reason** is that .....

# Motion:

**THBT all public servants should have the right to strike.**

肯定

権利を交渉の盾にする

選択の自由の保障

否定

緊急時に対応できない

社会生活がカオス



## Motion:

**THBT all public servants should have the right to strike.**

肯定

権利を交渉の盾にする

選択の自由の保障

否定

緊急時に対応できない

社会生活がカオス

**30秒以内で反論してみよう : [AREAの意識]**

- It is not true that ...
- It is not important that ...
- It is not relevant that ...



## Motion:

**THBT all public servants should have the right to strike.**

肯定

権利を交渉の盾にする

選択の自由の保障

否定

緊急時に対応できない

社会生活がカオス

## Feedbackの大切さ

- (1) 生徒: 表現と思考の幅を広げる [表現方法伝える]
- (2) 教員: 教員側のlogical thinking, critical thinking, practical English proficiency [自然と]

大学入試（推薦・総合型・エッセイ）に効果あり？



Debateの前はreading,  
Debateの後は、essay writing

# 〔どのようにして、学びを深める？〕

- (1) 社会人ディベート実践に参加する
- (2) 新聞、ニュース等の時事問題のインプット
- (3) 仲間・生徒とともに恥をかく〔共学〕



## References

- Aclan, E. M., & Aziz, N. H. A. (2015). Exploring parliamentary debate as a pedagogical tool to develop English communication skills in EFL/ESL classrooms. *International Journal of Applied Linguistics and English Literature*, 4(2), 1-16.
- Anderson, L & Krathwohl. D. (2001) . A Taxonomy for Learning, Teaching, and Assessing . Longman. New York.
- Gibbons, P. (2003). Mediating language learning: teacher interactions with ESL students in a content-based classroom. *TESOL Quarterly*, 37(2), 247-273
- Krashen, S. (1987). Principles and practices in second language acquisition. New York: Prentice-Hall.
- PDA(2022).一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会 公式ホームページ <https://pdpda.org/>
- Riddell, D. (2015). Teach EFL. Hodder Education. An Hachette UK company. The UK.
- Saito, Y., & Saito, K. (2017). Differential effects of instruction on the development of second language comprehensibility, word stress, rhythm, and intonation: The case of inexperienced Japanese EFL learners. *Language Teaching Research*, 21(5), 589-608.
- Saito, K., Trofimovich, P., & Isaacs, T. (2015). Using listener judgments to investigate linguistic influences on L2 comprehensibility and accentedness: A validation and generalization study. *Applied Linguistics*, amv047.  
DOI: <https://doi.org/10.1093/applin/amv047>
- Scott, S. (2008). Perceptions of Students' Learning Critical Thinking through Debate in a Technology Classroom: A Case Study. *Journal of Technology Studies*, 34 (1), 39-44.
- Spada,N., Jessop, L., Tomita, Y., Suzuki, W., & Valeo, A. (2014). Isolated and integrated form-focused instruction: Effects on different types of L2 knowledge. *Language Teaching Research*, 18(4), 453-473
- Sulaiman, Y., Fauziah H., Wan Amin & Nur Amiruddin (2008). Implementation of generic skills in the curriculum.
- Swain, M. (1995). Three functions of output in second language learning. *Principles and practice in applied linguistics: Studies in honor of HG Widdowson*, 125-144.
- 河野 周(2021) 『英語ディベート入門』 三省堂
- 西 巖弘 (2010) 『ワードカウンターを用いた驚異のスピーキング活動』 明治図書
- 文部科学省(2018) 高等学校学習指導要領

